

●研究会報告

第12回都市再生プラン研究会報告

9月3日(日)午後1時30分からイーブルなごや大会議室で開催しました、参加者は6名でした。その内容は次の通りです。

内容：輪読会

ジェイコブス著“発展する地域 衰退する地域—地域が自立するための経済学” (ちくま学芸文庫)

①第4章から第6章

報告者：牧野幸雄

第4章 供給地域

都市の力は、後背地ではそのすべてが相伴って発現し、それぞれの力が概ね妥当な均衡を保つ。これらの力は遠方の諸地域に及ぶとき均衡はやぶれる。市場、仕事、技術、移植工場、資本がばらばらの方向に分かれていく。こうして都市は遠方の諸地域で発育不全の奇怪な経済を形成する。そのようなグロテスクな経済のうちで、最も重要なのが供給地域である。供給地域は遠方の諸都市の市場の影響を受けていびつに形成される。これらの地域の欠陥は、貧困問題より根が深い。このことについて本書ではウルグアイを例に検証している。ウルグアイでは1953年頃以降、肉、羊毛、皮革に対する遠方の市場は急速に縮小し価格も下落した。そのため何もかも輸入するのではなく、広範な輸入品を地元の生産で置換するように、政府は、輸入代替計画に着手。速成の工業化すすめるも、結果は大失敗。製品のコストは、それと同じ輸入品よりはるかに高くなった。輸入置換は都市がたどる過程という自覚がないため、最も条件の悪い地域に工場を作ったが、仮に首都モンテビデオに作ったとしてもうまく運ばなかっただろう。モンテビデオ自体が、輸入置換を現実的、経

済的に成り立たせるのに必要な一連の技術、生産財、サービスを育てる都市の共生的な温床、インプロビゼーション(臨機応変に創意を働かせて共生的な過程を創り出していく過程)や改良の経験を欠いていたからである。ウルグアイ人がなしえなかったことは、自らのための生産的都市の創造であった。

第5章 労働者に見捨てられる地域

ここでの例としてイタリア南部やシチリアを検証するが、ウェールズ、スペインの大部分、エチオピアも同じである。ここで取り上げるのは、移住先ではなく、彼らが見捨てる地域のほうである。これらの地域が人々の流出によってどんな影響を受けるか。地域経済を転換させる唯一の力は、善かれ悪しかれ、輸入置換都市に端を発する五つの大きな力、都市の市場、仕事、技術、移植工場、資本である。これらの力のうちの一つが、自前の輸入置換都市をもたない遠隔地に不均衡な形で及んだとき、その結果は悲惨で、アンバランスなものになる。

イタリアの労働者が自分たちの地域を見捨てるようになったのは、イタリア北部そのものが原因ではない。むしろ逆にイタリア北部の諸都市のネットワークは、何世代にもわたって貧困を脱しようとするイタリア南部やシチリアの多数の人々を受け入れ、彼らが貧困から脱出するのを助けた。これは「国家的」な問題であるとか、イタリアの「国民経済」の欠陥であるとか、ECCの問題であるというふうに理解すべきでない。そのような見地は、イタリア南部やシチリアが、ウェールズと同様、自前の活気ある輸入置換都市を欠いている現実をぼかしてしまう。こうした事実を理解したからといって、解決方法や処方箋がただちに出てくるわけではないが、しかしそれは欠くべからざる第一歩である。

第6章 技術と住民排除

都市から遠い地域や自前の輸入置換都市をもたない地域では、生産性の上昇が、既存のものに代わる新しい生活をもたらすのではなく、むしろ、生産性の上昇によって過剰人口が生じたり人々の窮状が放置されることもある。このような陰惨で不均衡な地域経済の中に貫徹する原理は、スコットランド高地の住民排除のケースに見られる。アメリカでも、1930年代まで国内で最も後進的な地方だった南部で、大規模な農民排除があった。連邦政府は南部の農場に対し、資金と進んだ農業経営方式を提供した。耕耘機、播種機・・・大小の品目が、これ以後数十年間に、南部の農業を転換させた。それらはみな北部の都市や都市地域で開発され、最初は北部で使われ、次いで西部の供給地域に及んだ。

活気に溢れた西部や北部の諸都市は、これらの供給地域で不要となった人々に、新しい生活を提供する用意が充分できていた。

南部の農業でその技術がついに機能し始めたときには、産出高は飛躍的に増大した。農民とその雇い人の生産性も上昇。それゆえ余剰な人は解雇され、分益小作人（小作の一形態。地主と小作人とが一定の比で収穫物を分配する）は立ち退かされた。これらの労働者とその家族は軍隊、造船所、製鋼工場などに。戦争が終わると、新しい仕事は住民排除と同歩調では増えず、都市の黒人労働者の多くは解雇された。それにもかかわらず住民排除は続く。南部の都市と工業は、土地から排除された人々全部に仕事と所得を提供することはできなかった。それゆえ、追放された何百万人という南部農村労働者とその子孫に対して、今日に至るまで仕事は与えられていない。農業上の改善が成功のうちに始まったのに、このような副作用を伴ったのは、その改善が都市の経済的諸力が完全に揃った形で現れなかったためである。都市のエネルギーのうち、バランスを欠いた二、三本のより糸一都市からくる資本と技術一の先端が、遠方の地域にまで達し、その地域をはなはだしく歪めたの

である。

スコットランドの住民排除、アメリカ南部の農業革命がそれ自体としては成功だったように、貧しい後進諸国における緑の革命もそれ自体としては成功をおさめた。しかし、産出高の増大と労働の節約とがセットになっているために、緑の革命は住民をそれまでの場所から締め出す結果になった。彼らを迎え入れるような、新しい生産的都市はほとんどなかった。

①第7章から第9章

報告者：中村圭吾

第7章 移植工場地域

供給地域、見捨てられた地域、住民が排除された地域に関して、また、停滞し衰退した都市の問題に関してよく下される診断は工業が足りない」ということである。処方箋は「工業を誘致する」ことである。もともとは都市や都市地域で発展し、……自前の輸入置換都市をもたない遠方の地域にまで出ていくようになった工業である。そうした工業は、都市地域を離れられない工業とは異なるし、経済活動と経済発展に与える効果も異なるのである。移植工場は遠方の都市からやってくる。安い労働力にひかれてきたのである。

この実態をジョージア州北部の町マリエッタのロサンゼルス・のロッキード航空機会社がやってきた例を検証している。マリエッタでは会社に必要なものを生産する地元生産者を育成することにはならなかったし、道具、機械、材料、設計を現地で調達したわけではなかった、会社は必要なものを取り寄せたのである、都市から輸出することにすでに成功していたために、…販売についてももっぱら一地域に依存するようなことはなかったのである。これら遠方の都市から来た移植工場が…生み出した経済は、一種の工業化された供給地域であって、弾力性が無く、脆く、そして限界がある。

数少ない成功例として台湾をあげている。台湾では1956年からの「農民への土地開放」

計画で農村の地主を都市の資本家に転化させることに成功したことと相まって、移植工場です仕事をしていた台湾の人々は、そこでの経験から、企業の設立の仕方や経営の方法を学んだ。その後15年間で台北は輸入置換都市となり、それに続いて台湾第二の都市である高尾も輸入置換都市に変わった。

アメリカでさえ、企業誘致に懸命

企業誘致への誘惑は今も続いている。ミネソタ州知事は……ミネソタの会社を誘致しようとする攻勢（サウスダゴタ州の）に対して怒り心頭。ミシガン州では……ハイテク企業を誘致するための……促進予算の大幅な増大で対抗しようとしている……。カリフォルニアとマサチューセッツの「シリコンバレー」はハイテク企業誘致に心を砕いている州外の経済発展担当者に侵入されつつある。そのため、「企業誘致のために、予算をパンクさせるような税金優遇策や雇用主を引きつけるようなその他の誘因が生み出されるというように、あらたな有害な状況があらわれるのではないか、と州や地元の関係者の多くは心配している」と述べている。

第8章 都市のない地域に向けられた資本

世界有数の水力発電プロジェクトであるガーナのボルタ・ダム、…利用するにいたった工場はほとんどなかった。電力はきわめて安く、…灌漑によって換金作物の栽培を促進することになっていたが、この計画もとうてい不可能であることがわかり、8万人の住民は、ダムと貯水池に場所を明け渡すために追い出されて、…、大部分は、土地を持たない被救済民になったとみられている。

ダム開発、ダムを誘致する考え方

ダムをつくれれば発展が得られるというわけである。しかし、実際には、ダムをつくったところで、都市の市場と移植工場がなければ、何にもならないのである。ボルダ・ダムのようなむだな投資が意味しているのは、都市が放出する大きな力の第五番目のものである資本は、それが都市地域を越えて不均衡な形で

外に伸びていく場合には、他の四つの力と同様、まったく悲惨な状態を生む可能性がある……。

注) 資本、他の四つの力…第5章、p 119「地域経済を転換させる唯一の力は、輸入置換都市に端を発する五つの大きな力、都市の市場、仕事、技術、移植工場、資本。

これらの力のうちの一つが自前の輸入置換都市を持たない遠隔地に不均衡な形で及んだとき、結果は悲惨で、アンバランスなものになる。地域の経済を転換させることは何一つできない。

TVA計画の仕組み

TVAは、発足からすでに半世紀もたっているから、その経済効果は、達成されたもの達成されなかったもの、両面から見るができる。さらにこの地域の経済計画とそれを可能にした資金援助はそれぞれに典型的であり、これ以上の例は見当たりそうもない。

TVAは、政府によって計画が立案され、管理され、その資金を取り扱うために設立された公共体で、資金の一部は政府の交付金によるものであり、TVA当局によって引き受けられた借金によっていた。TVAは、1933年から一挙に、急速に、エネルギーにスタートした。計画の基礎にはダム建設があった。電力は、とりわけ化学肥料の製造のためと、農場への電力供給のために使われた。仕事が始まって10年以内で、この地域には新しい工業、新しい市場ができ、新しい仕事、新しい技術、もちろん多くの新しい資本が生まれた。計画立案者たちが、都市地域の複製、人工的な都市地域を生み出したからである。欠けていたのは、輸入置換都市だった。TVAの伝説は、…最初の10年の伝説であり、人工的な都市地域がつくられた期間のことである。しかし、TVA地域では、都市経済を振興させようという意図はまったく見られなかった。期待できるのは、借款、交付金、補助金をつかうということだけである。それ以外…失望と停滞、遠方の都市の力にいつまでも深く依存することである。豊かな国の貧しい地域も、貧しい国の場合と同じような結末となっ

ているのである

第9章 取り残された地域

かつては都市の市場に奉仕し、都市の仕事に人を送り出し、あるいは都市の技術、都市の移植工場、都市からの収入を受け取ってきた経済が、最終的にはそういった都市とのつながりを失うこともある。まったくの最低生存の生活に適応しているうちに、人々は以前の実践経験や技術の多くをすてさり、失ってしまう。人々は衰退した最低生存の生活の中で保持されていたわずかな残存部分に頼って、より原始的な生活を営みながら、より創造的だった過去に頼ってより貧しい生活を営んでいた。その例をヘンリーという町でみてみた。そのヘンリーが再び都市とのつながりをもつようになると、その経済はゆっくりと向上し始め、再び多様化の兆しを示し始めた。

私は、発展しつつある経済活動はすべて都市の経済に依存していると述べてきた。「経済活動が発展しているところはどこでも、発展の過程そのものが都市を生み出すからである。万が一、地球規模で都市の停滞が起こるなら、経済活動はいたるところで停滞し退化し、そこから脱出するすべはないだろう。発展する都市経済の実践経験は消滅して、問題をいかに解決するかという記憶も消滅し、…

その後には、ごく普通の人間にそんなことができるという信念さえ受け入れられなくなるにちがいない。われわれはみな経済活動の将来について悪夢を抱いているのだが、私が抱えている悪夢がこれである。

議論

- ・読むにしたがって、私たちが考える内発的発展論と同じであることが、具体的な事例とも重なって鮮明になってきている。
- ・台湾や韓国、シンガポールなどが、移植された工業を基礎として自立的な経済を建設した数少ない成功例として取り上げられている。台湾では台北や高尾市までもが輸入置換都市に変わったという指摘は注目したいことである。

地方自治のしくみと政策を学ぶ自治体研究社の書籍

★申込みはTEL又はFAXで東海自治体問題研究所へ（当会員は1割引き、郵送料は無料）

高齢期社会保障改革を読み解く

高齢者をねらいうちする社会保障改革に対抗する

芝田 英昭, 濱畑 芳和, 荻原 康一, 鶴田 禎人, 柴崎 裕美, 曾我 千春,
蜜田 逸郎, 村田 隆史, 小川 栄二, 本田 宏(著)

1,600円+税

発行年月日:2017/08/25

書籍の内容

安倍政権の社会保障政策の本質は、高齢者への政策に顕著に見られる。その政策を分析し、高齢者の生活実態から市民による改革運動の姿を提起する。



社会保障のしくみと法

私たちを取り巻く社会保障の現状

伊藤 周平(著)

2,700円+税

発行年月日:2017/07/20

書籍の内容

社会保障判例を踏まえ、生活保護、年金、社会手当、医療保障、社会福祉、労働保険の法制度を概観し、国民の「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」（日本国憲法25条1項）のあり方を問う。財源問題を中心に社会保障全般にわたる課題と社会保障法理論の課題を展望する。



新しい国保のしくみと財政

都道府県単位化で何が変わるか

2018年度から始まる国保運営のしくみと保険料試算の方法を解説

神田 敏史, 長友 薫輝(著)

1,800円+税

発行年月日:2017/07/10

書籍の内容

新しい国保運営のポイント、都道府県と市町村それぞれの役割、新しい保険料試算の方法を紹介。



初歩から分かる総合区・特別区・合区

再び始まった大阪市解体の策動に立ち向かう

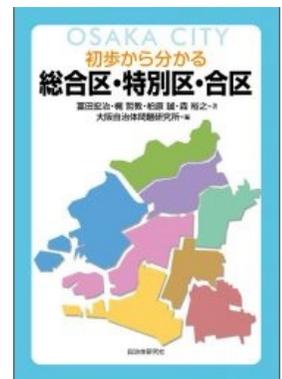
富田 宏治, 梶 哲教, 柏原 誠, 森 裕之(著)

926円+税

発行年月日:2017/07/25

書籍の内容

住民自治の視点から、維新政治とは何か、総合区・特別区・合区とは何か、大阪市解体を跳ね返すために市民に求められることは何かについて、分かりやすく解説する。



新版 地域分権時代の町内会・自治会

やはり必要！ 町内会の底力

中田 実(著)

1,852円+税

発行年月日:2017/05/20

書籍の内容

人口減少と高齢化のなかで町内会・自治会の役割は何か。活動内容の改善・充実とともに、分権時代に住民の声をすくい上げ、行政に反映する町内会の底力が求められている。政府から負担を強いられる地域の担い手として、まわりの組織やNPOとも協働する町内会の可能性を多角的に分析する。

